

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.15

令和7年3月13日

## 令和6年度 海洋教育のつどい!

2月15日(土)に、令和6年度海洋教育のつどいが開催され、市内の3つの小・中学校がステージ発表をしました。一年ぶりに三浦市民ホールで行いました。

ステージ発表の各学校の内容は次の通りです。

### 1 南下浦小学校3年生(右の写真)

「高ぬき海岸のみりよく～きれいな海を守るために～」

劇とプレゼンを融合させた発表でした。会場のみんを巻き込んだクイズに、最後には歌も歌って、会場を盛り上げてくれました。



### 2 名向小学校4年生(左の写真)

「城ヶ島の魅力発見! 灯台!!」

劇形式による、年間を通して学習してきた「灯台」についての学習の成果の発表です。

クイズや個性的なキャラクターなどで楽しませてくれました。

### 3 南下浦中学校1年生(右の写真)

「三浦について学ぼう!」

各学年の総合的な学習の時間などの学習内容についてのプレゼン発表です。

中学生らしく、落ち着いてわかりやすく発表し、海洋教育の奥深さを感じさせてくれました。



また、ポスター発表校の8校のポスターもそれぞれ見事なものでした。(左の写真)各校がそれぞれ実態に合わせて海洋教育に取り組み、「郷土三浦に誇りを持ち、これからの社会をたくましく生き抜く」人材の育成を推進してくれていることがわかる内容でした。

次年度も3～4校がステージ発表、6～7校がポスター発表の予定です。

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.14

令和7年2月13日

## 上宮田小学校 4年生 海洋教育の取組!

9月11日(水)に、上宮田小学校の4年生が県立海洋科学高校の大型実習船「湘南丸」を見学しました。湘南丸は全長約65m、幅約10mという大きさを、ハワイ沖などで遠洋漁業の実習を行っているそうです。

見学当日は、海洋科学高校の生徒も、船内の案内や説明を行ってくれました。子どもたちは船室や操舵室、機関室を見学したり、「はえなわ漁」について説明を聞いたりしました。



また、疑問に思ったことを質問し、船員の方に直接教えていただく場面もありました。機関室で見学した際、「この船を1日動かした時のガソリン代はいくらですか?」と、質問した子がいました。

疑問に思うことは、学びの第一歩です。疑問を持ち、調べ、解決するから定着するわけです。これは一例ですが、きっとどの子も興味をもって見学し、大人では思いつかないような疑問を思ったことでしょう。ぜひ、今後の学びにいかしてほしいと思います。

## ♪海藻おしば教室♪

10月3日(木)の3・4校時に、同じく上宮田小学校4年生の「海藻おしば教室」がありました。

指導してくださったのは、海藻おしば協会の方々です。3校時には見ながら、海の森の大切さについて学習しました。そして、4校時は海藻おしばの作り方を教えていただき、その後、一人ひとり自分のがきに海藻を広げていきました。キャラクターにする子もいれば、海を並べたり、ストローを使って海藻を円に切り取ったりして模様にする子もいました。

海藻をしっかり広げるだけでも、素敵な作品に仕上がるところが、海藻の持つ魅力です。普段、こんなにじっくり海藻を見る機会はないと思うので、子どもたちにとって、よい経験になったことでしょう。



DVD  
に  
は  
藻



また、海藻おしばは、きれいに海藻をはがせば、何度でも作り直すことができます。そのため、中には試行錯誤しながら、納得がいくまで何度も挑戦し、作品を作り上げていた子もいました。今回の体験を通して、海を大切にしようとする心が、さらに育ってくれることを願っています。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線 404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.13

令和7年2月6日

## 名向小学校 6年生 間伐材を活用したアオリイカ産卵床製作

4月23日にみうら漁業協同組合や日本釣振興会、ヤマリアなどの協力で、名向小学校の6年生が「間伐材を活用したアオリイカ産卵床製作」を行いました。



名向小学校の第2グラウンドのフェンスを越えているマテバシイの木の枝を伐採し、それを産卵床用に海に沈めて、アオリイカに卵を産み付けてもらうというプロジェクトです。

6年生は教室で話を聞いた後、板でできた短冊に願いなどのかき、伐採した木をまとめた

ものにくくりつけて産卵床をつくりました。

その後、この学習に関連してアオリイカのさばき方とアヒージョ、バター焼きの作り方をプロのコックさんに教えてもらい、調理をする学習にも取り組みました。

調理している姿や、実際に美味しく食べている様子は12月にテレビ神奈川にて、「森から未来へつなぐ ～湘南三浦アオリイカ～」と題して紹介されたとのことでした。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線 404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.12

令和7年1月16日

## 三崎小学校 5年生 城ヶ島見学

12月11日に三崎小学校の5年生が三浦市政策課の協力のもと、城ヶ島の砲台跡と弾薬庫跡を訪ねました。※今回の見学会は三崎小学校5年生の皆さんを対象に特別に行われたものであり、砲台跡等は通常非公開となっている場所ですので、ご理解とご注意をお願いします。



現地には、砲弾を保管する部屋やリフトの跡などが残されていますが、当時の具体的な運用方法や背景にはまだ多くの謎が残されています。それでも子どもたちはこのような場を訪れることで、「壁の鉄骨は何に使われたのか」「ここで亡くなった人はいなかったのか」「弾薬を砲台に上げるリフトはどうやって使っていたの

か」といった疑問を積極的に口にしていました。



このような場面が、子どもたちの探究心を引き出す絶好の機会となります。

例えば、これらの疑問をきっかけに、歴史や科学を調査することで、知識を広げ、学びを深めることができます。また、「三浦市における戦争と平和」といったテーマを通じて、総合的な学習へと発展させることも可能ではないでしょうか。



みうら学・海洋教育にかかわる体験活動は、問題を自分事として捉えるきっかけを与えてくれます。多様な体験や他者との協働を通じて、子どもたちが主体的に学ぶ力を育む取組を、これからも進めていきたいと考えています。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線 404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.11

令和7年1月9日

## 三崎小学校 3年生 海洋教育集中ウィーク!

9月の第2週に三崎小学校の3年生が海洋教育に集中的に取り組みました。



9月9日(月)に、シーボニア周辺にある丸十九丸にて真鯛の放流授業を行いました。

気温も高く、日ざしの強い日でしたが子どもたちは元気いっぱい学校からバスで出発しました。

目的地に到着して、授業が始まると暑い中ではありましたが、一生懸命に話を

聞いて次の活動に備えていました。

放流の際には、子ども達は嬉しそうに、たくさんの真鯛を放していました。放流した真鯛が元気に成長しているとよいですね。



9月11日(水)には神奈川県立海洋科学高校の漁業実習船「湘南丸」の船内の見学をしました。

マグロを獲るための「手順・道具・予算」などインターネットでは、知ることのできない細かい部分まで丁寧に教えていただきました。



9月12日(木)には三富染物店のご協力で、大漁旗の作成に取り組みました。最初は大変そうに見えましたが、後半は手慣れた様子で細かい部分まで丁寧に色をつけて仕上げることができました。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111(内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.10

令和6年12月16日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑥

優秀賞 初声中学校 3年 鈴木 一輝 さん 「青空の下に広がる海の道」



【ひとこと】

海に、はさまれているところで撮影したのですが、海と空の比率を考えて撮影しました

【講評】

左右に海があり、道のように感じる配置から捉えているのが素晴らしいですね。この先はどうなっているのだろうか、燦燦と照らす太陽が明るい未来、希望を感じさせてくれるワクワクさせる作品です。

優秀賞 初声中学校 2年 小杉 侑愛 さん 「カニたちのあつまり」



【ひとこと】

木の棒のようなものにカニたちが集まってとても珍しいなと思い撮影しました。

【講評】

これだけ多くのカニの姿を一度に捉えることは、簡単なことではなく、素晴らしい一瞬を捉えた作品です。カニたちが集まって、どんなことを考えているのか、楽しくおしゃべりしているのだろうか…想像力をかき立ててくれます。

優秀賞 初声中学校 1年 山田 航輔さん 「岩の中のハリセンボン」



【ひとこと】

父とおよいでいてもぐって足をつけたときはりが足にぶつかって足が少しはれてしまったこと

【講評】

ハリセンボンの動きがよく伝わる写真です。岩の中を泳ぐ姿と針の様子が、画面に水の流れを感じさせるとともに、目力もあって、今にも飛び出してくるような迫力を感じさせます。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.9

令和6年12月12日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑤

優秀賞 南下浦中学校 3年 亀山 想夏さん「後ろ姿」



【ひとこと】

だいたいカニの写真を撮るときは、カニがこっちを向いているのが多いけど、これは、後ろをむいていてすこししんせんなところがお気に入りです。

【講評】

カニがどこかに向かおうとしている姿がなんとも言えませんね。美しい夕焼けに見とれて感動しているのでしょうか。そんな一瞬を捉えた撮影者のカメラの腕に拍手をお送りします。

優秀賞 南下浦中学校 2年 関口 絆さん「夕日に染まるヨットハーバー」



【ひとこと】

夕日がヨットを照らしていて綺麗だった。

【講評】

たくさんのマストと、海、空、夕日が、自然と人々の生活のバランスを感じさせてくれます。夕暮れ時、ヨットも美しい夕焼けを見ながら、明日の航海に向けて船体を休めているのでしょうか。

優秀賞 南下浦中学校 2年 熊谷 海斗さん「コブ自慢」



【ひとこと】

「オレのコブすごいだろ～」と言っているみたいでした。三浦ではカンダイと呼ぶこともありますが立派なコブとアゴのでたコブダイ!成長につれてメスからオスに変わる個体です。全長70cmくらいでした。インパクトはかなりのもの。

【講評】

画面いっぱいにコブダイの特徴的な顔を写した構図が迫力満点です。ダイナミック!「コブ自慢」というタイトルがピッタリの作品で、本当に自慢しているかのように感じ取れます。ちなみにコブが大きい個体はオスです。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.8

令和6年12月9日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介④

優秀賞 旭小学校 5年 杉野 友陽さん 「剣崎小とどこまでも続く海」



【ひとこと】

高い岬から撮り、どこまでも続く海をうつした。

【講評】

早朝の、雲一つない空と江奈湾。既に多くの船が出航して静かな海と、それを見守るように立つ剣崎小学校の校舎のバランスが美しいですね。海とともに年月を過ごしてきた剣崎小学校にメッセージ性を感じます。

優秀賞 剣崎小学校 6年 鈴木 杏さん 「夜の海岸」



【ひとこと】

おくの光が水に反しゃしているところが気に入っている。

【講評】

海に写る街の灯りが、一日の終わりをあたたかく表現した一枚です。街の灯が何色にも広がって海面に写っている様子が大変美しいです。

優秀賞 初声小学校 4年 鈴野 大智さん 「赤目のカニ」



【ひとこと】

体がよろいみたいでかっこいいから。

【講評】

よろいをまとったかのように、どしっと構えた赤目のカニの力強さ、たくまさが十分に感じられ、格好いいですね。カニと撮影者の目が合っ、お話をしているのではないかと想像してしまいます。

優秀賞 南下浦中学校 3年 飯塚 蒼生さん 「海中の魚」



【ひとこと】

海のきれいさと魚がいい。

【講評】

海中をわんさかと泳ぎ回るメジナの様子を、タイミングよく捉えた幻想的かつ神秘的な一枚です。まるで絵画を見ているかのような、見ている人を惹き込む力を感じます。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.7

令和6年12月5日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介③

優秀賞 名向小学校 1年 出口 葵翔 さん 「ぼくのすいぞくかん」



【ひとこと】

いそあそびでじぶんでつかまえたみじかなうみのいきものですいぞくかんをつくりました。たくさんいきものとふれあえたのでたのしかったです。

【講評】

たくさん捕まえられたことの撮影者の喜びが伝わるとともに、水族館の中の生き物たちも楽しそうに写っていますね。荒井浜の生物種の多さを感じさせてくれます。想いがあれば、水族館はどこにでも作れますね。

優秀賞 南下浦小学校 6年 宇治 七海さん 「ここは君のねる場所じゃないよ！」



【ひとこと】

海をそうじして、きれいにしよう!

<題名について>ペットボトルが砂をかぶってふとんでねているようだったから。

【講評】

ゴミたちに対して話しかけている題名と写真がとてもよく合っていて、メッセージ性を強く感じさせる一枚です。ゴミさんたちには、ちゃんとあるべき場所で寝てほしいですね。

優秀賞 上宮田小学校 5年 松竹 凜士さん 「みうらうみ」



【ひとこと】

空と夕日が海に写っていてとてもきれいでした。

【講評】

夏の暑さの中、涼しい風が空を海を吹き抜ける感じが感じられる一枚です。画面中央で分かれる上下の空、夕日と海の模様、色彩の対称によってドラマチックな作品に仕上がっていますね。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.6

令和6年12月2日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介②

優秀賞 三崎小学校 3年 土山 結愛 さん 「うみとじょうがしま大はし」



【ひとこと】

夕日があたってうみもはしもきれいだった。

【講評】

赤く輝く城ヶ島大橋がひときわ美しいですね。夕日のあつた城ヶ島大橋と船が、海にできた光の道を進んでいるかのようです。また、写真の右上には月も出ていて、これもワンポイントになっていますね。

優秀賞 岬陽小学校 4年 高橋 瑠泉 さん 「糸に引っかかったカサゴ」



【ひとこと】

この魚を見たときにかわいそうと思いました。なぜなら、えらにはりが引っかかっていたので、とってあげようと思っても背中のとげがじゃまでとれませんでした。そのとき私はもっとごみを海にすてない心がけをしました。

【講評】

環境問題を訴えかけてくるような一枚でありつつ、同時に強さも感じさせます。糸が引っかかっている、なお生き続けているカサゴの生命力、しかし悲しそうな目のコントラストがなんともいえません。

優秀賞 岬陽小学校 5年 松井 逞真 さん 「まどろみな世界」



【ひとこと】

夕日の前に富士山がかっこよく写ってる所が好きです。

【講評】

これが日本の港町!と思わせる風情が、富士山、漁船、港から感じられますね。一日の終わりを、美しい夕焼けと富士山が感じさせ、明日への活力を湧かせてくれますね。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.5

令和6年11月28日

## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介①

最優秀賞 南下浦中学校 3年 望月 夕杏 さん 「夕日に染まる江奈湾」



【ひとこと】

いつも見ている江奈湾が、夕日で燃えるような色に染まり、何もかもがピンクになった瞬間を撮った写真です。

【講評】

雲があることで空、そして海のグラデーションをよりよいものに行っているのがわかります。そんな最高の一瞬を捉えた美しい一枚です。この時期の夕方ではしか撮影できないはずで、それを待っていた撮影者に脱帽です。

最優秀賞 三崎小学校 6年 水野 かつき さん 「強面に潜む臆病者」



【ひとこと】

ちょうどいい魚の写真をとるために、何回も潜りましたが、なかなかとれず日時がたっていき、あせっていたときにこの写真をとりました。

【講評】

「海のギャング」などと呼ばれるウツボですが、穴の中に隠れていることが多く、本当は怖がりなのかもしれませんね。そんなウツボとの根気の勝負に撮影者が勝ったことで生み出された素晴らしい一枚です。

東京大学三崎臨海実験所特別賞 名向小学校 6年 山垣 凜夏さん 「ムカデミノウミウシの証明写真」



【ひとこと】

正面からさつえいできた所。うしろにウニをうつせた所。

【講評】

身近な海にまだまだ珍しい生き物がいる。そこに海の偉大さを感じる作品です。美しいムカデミノウミウシを正面から写し、正に証明写真のようです。背景のウニとのコントラストもよいですね。ちなみに、このウミウシの研究を臨海実験所でも行っています。

櫻井正則の会特別賞 三崎中学校 2年 内海 花音 さん 「輝く洞門」



【ひとこと】

波の浸食によって作られた小さな洞門と波に陽の光が反射して輝いていてきれいでした。

【講評】

洞門から見える海と空。そして、そこに差し込む光とその広がりがとても美しいです。暗い所に差し込むからこそ、本当の光が見える。そんなことを感じさせてくれる一枚です。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111 (内線404)

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.4

令和6年11月21日

## 令和6年度 第13回海洋教育写真コンテスト表彰式

11月13日（水）に、三浦市民ホールで令和6年度第13回海洋教育写真コンテストの表彰式が行われました。今回は応募総数817点の中から、最優秀賞2点、優秀賞16点、特別賞2点の計20点の作品が選ばれました。星野代表理事のあいさつの後、表彰が行われ、入賞者は緊張した面持ちでステージに上がりました。



表彰の後には、みうら学・海洋教育研究所の増田事務局長と、海洋教育担当校長である剣崎小学校の五十嵐校長による作品紹介が行われました。



最後に、東京大学三崎臨海実験所の三浦所長より、「今年度も様々な角度から生き物を観察した作品がたくさんあり、面白く、楽しく審査することができた。素晴らしい自然環境がある中で育つ三浦の子どもたちがうらやましい！」とのお言葉をいただきました。

会場入り口には入賞作品が展示され、来場者の注目を集め、受賞者の喜ぶ姿がたくさん見られました。どの作品も素晴らしい作品です。次号より入賞作品の紹介をしていきます。



みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、  
学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.3

令和6年11月7日

## 岬陽小学校 4年生 地震にそなえるまちづくり



8月に宮崎県で震度6弱の揺れを観測したマグニチュード7.1の地震を受けて、南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震への注意を呼びかける臨時情報が発表されましたが、2学期から社会の学習で地震に対して市や地域、学校、家庭でどのような備えをしているか、また私たちも日ごろからどんな備えが必要かを学習しています。先日は三浦市役所防災危機対策室の方に来校していただき、三浦市で災害に備え、どのようなことをしているのか教えていただきました。

子どもたちからは、

「とても勉強になった。本部や断層のことを知れてよかった。」

「普段の備えや準備の再確認が必要だということが分かった。」

「『災害が来るかもしれない』と思ってないとパニックになってしまうと思う。」

「避難するときのために靴を用意するのは知っていたけど、履きなれた靴の方がいいということが知れてよかった。」

というような感想が聞かれました。市の取り組み（公助）助け合い（共助）自分も備える（自助）の大切さを感じたようです。

## 続報！ 夏の終わりの生き物観察&ビーチコーミング

NO.1でお伝えした岬陽小 4年生の総合的な学習の時間についての続報です。7月の城ヶ島に続いて、9月は宮川湾に行ってきました。暑い中でしたが、子どもたちは岩場を乗り越え、小魚や蟹、小エビやフナムシ、様々な貝を見つけました。夢中になりながら生き物を探す子どもたちから「せんせーい見てー！」「すごい見つけた！」「見て、でかい蟹！」と、まるで宝物を見つけたかのような元気な歓声が響きました。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.2

令和6年10月28日

## 南下浦小学校 全校 砂工作

### ～海岸に いろんな生き物が!～

南下浦小学校の全学年の子どもたちが、5月24日（金）に全校砂工作を行いました。たて割り班で行う「全校砂工作」は小規模校の良さを生かした特色ある教育活動です。この活動は、豊かな自然に親しむとともに、砂工作やたて割り活動を通して、仲間とつくる楽しさを味わったり、異学年の子との交流を深めたりすることをねらいとして実施しています。

実際の活動では、A～F各グループ仲良く元気に協力して、楽しみながら砂工作に取り組むことができました。特に6年生は各グループのリーダーとして指示を出したり、低学年のお世話をしたりと、頼もしい姿をたくさん見ることができました。



A グループ シャチ



B グループ エイ



C グループ ゴジラ



D グループ クジラ



E グループ イルカ



F グループ カメ

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.1

令和6年10月21日

## 岬陽小学校 4年生 ビーチコーミング

～ビーチの宝探しへ Let's Go!～



岬陽小学校の4年生では、5月から各々で調べ、話し合い、総合的な学習の時間のテーマを決定していきました。今年度は、「海の宝探し」、「ビーチコーミング」で学習を深めていくことになりました。

7月4日（木）は天気もよく、大潮のため絶好のビーチコーミング日和でしたが、熱中症が心配されたため、歩きではなくバスで、滞在時間も予定より1時間短縮するなど、しっかりと対策をしながら実施しました。

城ヶ島の白秋碑前近くの小さな砂浜に行き、早速みんなでトング片手に宝探しです。「先生見てー!」「こんなの見つけた!」「でかいやつ拾った!」「この色きれいでしょ!」自分の見つけた宝物に歓声を上げながら夢中で歩き回っていました。帰りのバスから降りる頃にはかなり暑くなっていましたが、どの子も疲れながらも嬉しそうでした。

この校外学習の後、子どもたちは自分の宝物を観察し、次の学びに繋げていったとのこと。そして、2学期以降の学習については、別の機会でご紹介いたします。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 046-882-1111（内線404）